

解答用紙 1

免疫・微生物学試験 2008.12.8 番号

名前

A) 次の空欄を埋めよ。

1) Systemic inflammatory response syndrome の診断基準

発熱 (38) °C 以上 または 低体温 (36) °C 以下
脈拍 (90) 以上/分
呼吸 (20) 以上/分 または PaCO₂ (32) 以下
白血球数 (12000) 以上 または (4000) 以下
以上の内 (2) 項目以上

2) 心内膜炎の診断基準の2つの大項目は心内膜の障害の証拠と () である。

一般に菌血症はグラム (陰性桿菌) が多いが、このタイプの菌による心内膜炎では希である。従って、グラム (陽性球菌) の心弁膜への付着能力が強いと考えられる。例えば、抜歯の歯科治療により、口腔内の (口腔連鎖球菌) が起炎菌となる。

B) 次の細菌毒素に関連する事項を下記より選び、番号で答えよ。同じ番号を複数回選択して良い。

Staphylococcal enterotoxin (2) (8) (19) (25) (28)
Toxic shock syndrome toxin-1 (4) (9) (11) (12) (18) (25) (29)
Exfoliative toxin (11) (14) (16) (20) (26) (27) (?)
Streptococcal pyrogenic exotoxin (4) (6) (11) (12) (13) (15) (17) (24)
(25) (28) (29)

1) リュウマチ熱 2) 毒素型食中毒 3) 感染型食中毒 4) 多臓器障害 5) 糸球体腎炎 6) 血液凝固障害 7) 両側眼球結膜の充血 8) 発熱はない 9) 発熱 38.9°C 10) 冠動脈瘤 11) 皮膚の落屑
12) 低血圧 13) 軟部組織の壊死 14) Nikolsky sign 15) 成人呼吸窮迫症候群 16) Ritter disease
17) 猩紅熱 18) 猩紅熱、麻疹、レプトスピラ病等が検査陰性 19) 手の化膿巣 20) とびひ
21) おでき 22) よう 23) 面疔 24) 丹毒 25) superantigen 26) デスモソームの分解酵素
27) Staphylococcal Scalded Skin Syndrome 28) 嘔吐 29) 発疹

C) 次の化学療法剤に関連することについて空欄を埋め、問いについて簡潔に答えよ。

1) ペニシリンの使用法を習熟することは、他の抗菌剤を使用する上でも基礎となる。しかし近年はより抗菌域の広い第3世代セフェムが治療のはじめから使用される傾向にある。その結果、かつては clindamycin によって生じた菌交代症の (偽膜性大腸炎 (pseudomembranous colitis)) は第3世代セフェムによって生じるケースが多くなった。

問1 この菌交代症は第1セフェムより第3世代セフェムによって生じることが多い。その理由を述べよ。

(第三世代セフェムの方が抗菌域が広く、かつグラム陽性菌に対して弱いからである。)